

に社会のことを知ろうとするやつだ。

E子 今となってはたまにしか質問しませんが、向上心や知的好奇心はずっと必要ということですね。

部長 請求書はなぜ必要なのか、なくとも良いのか、領収書は必ず発行しないといけないのか…素朴な疑問はいくつもあるね。

自分の仕事を理解したら、その周囲から世界を広げると理解が早いだろう。例えばインボイス制度って何だろう、電子帳簿保存法に対応するにはどうしたらよいだろう、といった感じだ。

E子 確かに身近ではありますが、一気にレベルが上がったような…。

部長 そうだね。簿記や会計だけの世界から、税務の世界にも踏み出そうとするわけだから。

E子 私の身の周りに税務に詳しい人いたかしら？

部長 まずは会社の顧問税理士かな？直接話したことがないときは、上司か

ら話をつないでもらうとよいだろう。

E子 ふむふむ。

部長 他にも、会社で使っている会計ソフトのメーカーからセミナーの案内が届いたりもしているだろう。

E子 そう考えると、たくさんありそうな気がしてきました。最近は、ネットですぐ調べると答えが簡単に出てきます。

部長 最近はホームページだけでなく、動画サイトなどもあったりするね。

E子 勉強をやるうと思えばいくらでもできる環境があるという訳ですね。

部長 私の時代は書籍と税務の雑誌がメインだったから、それを考えると夢のようだね。ただし…。

E子 ネットにはたまに嘘の情報もあるということですね。

部長 そうだね。ただ単に法律に基づかない自分の見解を発表しているだけのものもあるし、情報が古くて今では制度が変わっているものもある。

E子 そんなときは部長や顧問の税理

士さんに確かめればよいですね。

部長 そうだ。とくに税務はしっかりとした根拠が求められることがほとんどだから、初めのうちは慎重にね。

E子 はい。徐々にそうして守備範囲を広げて、会社全体の経理を理解できるようにになると楽しいでしょうね。

部長 そうだね。
E子 ちなみに、「勉強Ⅱ資格取得」という考えもありますよね。

部長 それはそれで間違いではない。採用する場合にも一つの参考になる。

E子 資格を取るのはいくらに努力が必要ですかね。

部長 ただ、実際に仕事をするうえで必要なのは実務能力だ。とくに転職する場合などは、即戦力が求められる。たとえ資格があっても、実務処理能力に乏しければ会社は困ってしまう。

E子 なるほど。資格に見合った実務経験や処理能力がないと、実際には辛いかもということですね。